23年産米 増産なら交付金

「減反廃止」名ばかり

コメ政策 秋田から問う

地である秋田県に対し、交付金の削減を示唆しコメを増産しないよう要求していたことが分かった。佐竹敬久前知事や県関係者が秋田魁新報の取材に証言した。政府はコメ生産を抑制する「減反」を18年に廃止し、産地が生産量を判断する仕組みに移行したとしてきたが、減反廃止は名ばかりだったことが浮き彫りとなった。

■関連記事27面

コメ生産を巡る秋田県と農林水産省のやりとり

秋田県

農林水産省

2022年11月
❶ 23年産米の生産量目安を設定

23年1～3月
❷ ・目安の増加を問題視
・交付金の減額を示唆

❸ 24年産米を増産意向

23年夏
❹ 米価が下がることに懸念示す

※県関係者の証言などによる。丸数字は時系列順。

減反　主食用米の生産を政府主導で抑制する政策。食糧管理（食管）制度の下でコメ余りによる政府の財政負担が問題となり、1970年以降に本格化した。都道府県ごとに生産目標を割り当て、転作奨励金を用意。自治体による指導などを通じ、農家の生産を抑えた。95年の食管制度廃止以降、米価維持が目的として強調されるようになった。2018年の「減反廃止」で目標配分はなくなった。ただ、その後も政府が示す国全体の需給見通しを基に、各県は「生産の目安」を策定。個々の農家まで目安が割り当てられるケースもある。政府が減反廃止を見据え、飼料用米などへの多額の交付金制度を設けたこともあり、事実上の減反が続いていると指摘されてきた。

とコメ生産を抑制する姿勢を続ける中、24年夏にはコメが店頭から消え、高騰する「令和の米騒動」が起きた。県にコメを増産しないよう要求したことからはコメ政策の失政ぶりも浮かび上がる。

県関係者によると、農水省がコメを増産しないよう要求したのは、23年産米についてだった。県側は圧力と感じ、24年産米の「生産の目安」にも影響を及ぼした。

県や農業団体などでつくる県農業再生協議会は22年11月、農家らがコメ作りの参考にする県全体の生産の目安を39万8700㌧に設定。22年産の目安と比べると2・5%多かった。不作に見舞われた22年産の実際の生産量と比べると4・2%増だった。

これに対し、農水省農産局の幹部は23年1月から3月ごろにかけて、少なくとも2度にわたり県幹部に電話。目安の量を増やしたことを問題視する内容で、県農業再生協議会の会議を再び開き、目安を決め直すよう求めた。コメの生産が拡大した場合には、転作に関する交付金を減らすとも告げたという。ただ、県は当初決めた目安を変更しなかった。

24年産米についても、農水省は県に対し、生産を抑えるよう求めていた。

県産米の在庫に不足感が生じたことから、県は23年夏、24年産米を増産してもいいか農水省農産局に尋ねた。以前電話してきた幹部とは別の農水省の担当者が応じ、コメが余って米価が下がることに懸念を示したという。県は農水省の意向に沿う形で関係機関と協議し、23年産と同水準の目安を決めた。

25年4月まで知事を4期16年務めた佐竹前知事のもとには減反が廃止された18年以降も、農水省東北農政局長が訪れ、生産抑制に協力を依頼していくことがあったという。

佐竹前知事は「農水省から年間数百億円の補助金をもらっている県とすれば、農水省の言うことには従わざるを得ない。暗黙の圧力がある」と話している。

コメの需給調整を担当する農水省農産局水田農業対策室は「当時の経緯については、分からない」としている。

当時の農水省農産局の幹部は秋田県に電話したことは認めつつ、「秋田に限らず『需要に応じた生産』をやっていこうという話を各県の担当者としている。秋田に特別、圧力をかけたということはない」と話した。

（佐藤朋紀、石塚佳治、佐藤悠大）

◇

「令和の米騒動」による米価高騰が消費者に重くのしかかり、コメ政策への注目が高まっています。問題の真相を探るとともに、今後のあるべき姿を秋田から考えていきます。

統制的な農

な、米価維持の手段として必要不可欠と考えてきたことがある。農水省は長年、コメ余りを防ごうと、需要と供給が一致する量の生産を目指してきた。供給過剰はコメ農家の所得減少に直結するとの考えからだ。

だがそうした姿勢は、米価下落時のセーフティーネットが十分に整えられず、需要拡大に向けた政策も講じられてこなかったことの裏返しでもある。コメ農家は低収益を余儀なくされ、担い手不足が深刻化。昨年来の米価高騰は収まらず、消費者の負担が膨らみ続けている。

令和の米騒動の根本原因に、

て重い。

そもそも減産の根拠とした政府の需給見通しは、誤っていた。減反が象徴する統制的な農政の限界は、もはや明らかだ。

石破前政権が打ち出したコメ政策転換の機運はしぼみ、高市政権の発足後、政府は減反の隠語のように使われてきた「需要に応じた生産」に回帰している。産地のコメ作りを上から押さえつける農政への逆戻りが懸念される。

政府が誤った判断に基づき減産を誘導した帰結が、令和の米騒動だ。政府はその責任を直視する必要がある。（佐藤朋紀）

1キロ1万5千円超の高値となった季節ハタハタの雌＝男鹿市船川港の県漁業協同組合中央支所の市場

季節ハタハタ入札 1キロ1万5千円超

北浦10.3キロ やっと初漁日

県漁協中央支所 浜値、過去最高か

男鹿市船川港の県漁業協同組合中央支所の市場で17日、16日夜から17日朝に北浦漁港で水揚げされた季節ハタハタ10・3キロの入札が実施された。雌は1キロ1万5千円超の高値がつき、支所によると、管内では過去最高額の浜値とみられる。17日が県内季節ハタハタの初漁日となり、1995年の禁漁明け以降で最も遅くなった。

■関連記事20、22面

北浦漁港では16日夜に3キロ、17日朝には7・3キロの水揚げがあった。雌2箱（各4キロ）、雄1箱（2・3キロ）に分け、午後2時過ぎから13の仲卸業者で入札を実施した。

雌は昨年の初漁日の1キロ約1万円の1・5倍を超える高値になった。2箱とも落札した業者の担当者は「鮮度が良くサイズも立派。まずは顧客への流通を考えている」と喜んだ。「初物で1キロ1万円を超えるのは、以前はなかったことだ」とも話した。

雄は別の業者が1キロ約6千円で落札した。

今季はこれまで、県内の漁港でまとまった水揚げがなかった。初競りや初入札が行われる「初漁日」は、禁漁明け以降で最も遅かったのは昨年の12月15日だった。（阿部拓郎）

北斗星

先日終了したNHK大河ドラ「べらぼう　蔦重栄華乃夢噺」は、尾美としのりさん演じる朋堂喜三二が県民に注目されたこだろう。喜三二の本名は平澤常で、1735年に江戸の生まれ秋田藩士の養子になり秋田藩江戸上屋敷留守居を務める傍ら、しゃれ、風刺を交た絵入り読み物である黄表紙の作家などして活躍した▼ドラマの主な舞台は、主公の蔦屋重三郎が本屋を開いた吉原で、在の台東区。常富がいた上屋敷も台東区新御徒町駅周辺にあった。一帯は藩主になみ「佐竹商店街」となっている▼台東のターミナル駅といえば上野。今やその野のシンボルである上野動物園のジャイントパンダ2頭が来月下旬、中国に返還れることになった。2頭がいなくなれば初めて貸与されてから53年にわたり愛さたパンダが国内から姿を消す▼高市早苗相の台湾有事に関する発言で日中関係はえ込んでいる。返還期限が来年2月だっとはいえ、新たな貸与がないのは関係悪の影響ではと思ってしまう▼動物園では覧者殺到による混乱を防ぐため、1分程しか見られない制限が行われている。23以降の観覧は事前申し込みが必要。それも一目見たい人が少なくないはずだ▼佐商店街は上野から程近い。台東区の浅草ら隅田川を渡った対岸の墨田区役所など一帯には佐竹氏の庭園があった。いずれ往時を伝える看板が立つ。秋田ゆかりのにも足を延ばしてみては。〈2025・12・

きょうの紙面

2 解散見送りへ 3 4 ガソリン全国で下落
15「挑め冬の大舞台」② 駅伝女子・横手清陵
20 民謡民舞全国大会 鹿角・太田さん最高賞
21 国道46号 生保内―卒田間をバイパス化
24 創作四字熟語「古米奮闘」コメ高騰対策
25 女性参政権80年 獲得に尽力した和崎ハル
週刊さきスポ 八王子高バスケ 県出身2選手
9 くらし 10 文化 12 声の十字路 24 おくやみ

ご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-13-1231
お問い合わせ、ご意見は読者交流 ☎018-888-1818
秋田魁新報電子版 さきがけMOBILE